

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

膵頭十二指腸切除における幽門輪の意義に関する後方視的観察研究－日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究－

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科

【研究責任者】 坂元 克考（肝胆膵乳腺外科 講師）

【研究代表者】 和歌山県立医科大学第2外科 准教授 川井 学

【研究の目的】

膵頭部領域の腫瘍に対して施行される膵頭十二指腸切除では、術後の消化吸収機能を温存する目的で、幽門輪温存膵頭十二指腸切除が広く行われています。しかし、胃内容排泄遅延は入院期間を延長させ、術後 QOL を著明に減少させる合併症です。その原因として、郭清に伴う迷走神経支配の喪失や血流の乏しくなった幽門輪の存在が胃排泄遅延の危険因子と考えられています。このため、胃内容排泄遅延を減少させる目的で、全胃を温存し幽門輪のみを切除する幽門輪切除膵頭十二指腸切除あるいは亜全胃温存膵頭十二指腸切除を行う施設もあります。しかし、幽門輪切除における長期栄養状態や吻合部潰瘍発生頻度などの長期成績の詳細も明らかではありません。

このため、膵頭十二指腸切除術の術式における胃内容排泄遅延発生を主要評価項目として、膵頭部切除時の幽門輪切除が胃内容排泄遅延を減少させるかを検証します。

【研究の方法】

（1）対象となる患者さん

膵頭部領域疾患（膵癌、胆管癌、 Vater 乳頭部癌、十二指腸癌、膵管内乳頭粘液腫瘍、膵内分泌腫瘍、膵嚢胞性疾患、腫瘍形成性膵炎）の患者さんで、2015年1月1日から2017年12月31日までの期間中に、膵頭十二指腸切除

術を受けた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂く診療録より収集を行うデータは、被験者個人情報（年齢、性別）、血液検査などの術前情報、画像診断情報（CT検査）、手術関連情報（術式、手術時間、出血量等）、術後合併症情報、病理組織および細胞診診断情報、術後予後情報に関する情報です。

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータは、匿名化されて、CD-R に保存した電子ファイルを郵送することによって和歌山県立医科大学 第2外科に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科 坂元克考

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵乳腺外科 坂元克考

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5327